

第6回みやき町総合計画審議会 議事録（要旨）

○日時

令和5年1月31日（火）9：30～

○場所

みやき町コミュニティーセンター 1階 研修室

○次第

1 開会

（事務局）

みやき町総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、委員定数20名に対し、出席委員16名で、委員過半数の出席があるため、本日の審議会は成立することを報告する。

（町長）

総合計画は、概ね予定どおりに進んでいる。パブリックコメントを実施した結果を説明し、答申をいただければと思っている。今回の審議会も引き続き、よろしく願います。

（事務局）

<資料の確認>

2 会長挨拶

（会長）

第6回審議会だ。本日はパブリックコメントの確認を行う。また、計画書の内容に大きな修正がなければ、町長に答申を行う。

3 議題

（1）第5回総合計画審議会の審議内容及びパブリックコメントの実施について

<事務局から説明>

（会長）

前回審議会で出た意見を反映した修正の説明があった。また、パブリックコメント5件の対応について、質問、意見等はあるか。

(委員 A)

総合計画は何冊作成し、どれぐらい配付するのか。

(事務局)

計画書は完全版と概要版を作成する。概要版は、15,000部作成し、全世帯へ配付する。完全版は400部作成し、議会等に配付することを考えている。また、ホームページでも公開し、町民が閲覧できるようにする。

(委員 A)

政治的に無関心層が多くなっているが、若者から高齢者まで、まちづくりに関心を持ってもらいたい。この総合計画を読んでもらいたい。行政用語や専門用語の説明が足りていないと感じる。例えば、46ページのハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチのような難しい専門用語は使うべきではないと思う。注釈があればいいが、住民から見ると専門家が作ったもので、住民の意見が反映されていないと考える方もいると思う。誰が読んでも理解ができるような文章にすべきではないか。

(事務局)

資料の135ページ以降で用語集をつけて、用語の説明をしている。概要版は、分かりやすいものにしたいと考えている。

(会長)

この総合計画の下には、いろんな個別計画がある。個別計画の改定、策定を行う際、町民が参加することが、住民協働の方法として有効なものだと思う。今も行っているかと思うが、協働を総合計画の大きな柱にしているため、そういった機会を可能な限り設け、総合計画の趣旨を理解してもらおう努力をしてほしい。

パブリックコメントへの対応はいかがか。パブリックコメントでは、小児科について言及されている。行政的には、難しいところだと思うが、この点はどうか。

(事務局)

本意見の小児科は、隣の町の医療機関について書かれている。町内にも小児科があるため、現時点では、町内の医療機関に行ってもらいたいと考えている。

(会長)

全国的に少子高齢化の影響で、産婦人科と小児科は減少傾向だ。一つの町だけでは解決できない問題ではないため、既存の小児科医院が存続することが重要なことだと思う。

ごみの焼却、野焼きについてはいかがか。昔からの住民には当たり前でも、転入してきた住民からすると、燃やすという行為は、非常にネガティブな意見が多いのが現状だ。

(事務局)

野焼きに関する苦情は役場に来ている。環境福祉課では、文書を各地区に回覧し、現地を確認し、注意喚起をしている。その都度、対策を行っているが、新旧住民間で認識の違いがある。

(委員 B)

成果指標は関連部署の意見を積み上げたものか。住民満足度を 80% に設定してあるものがあるが、100% で設定すべきではないか。設定の根拠はあるのか。

(事務局)

成果指標の数値は各課にヒアリングをした上で設定している。100% を目指すことは当然かと思うが、ケースによっては、そこまでいかないこともあるため、こういう数値設定をしている。

(委員 B)

計画段階で、目標が 80% はおかしいと思う。PDCA を繰り返しながら 100% に向かうのではないか。

(会長)

考え方としては当然のことで、完璧を目指すべきだとは思う。しかし、実際には越えなければいけない壁がある。また、住民アンケートで 100% 満足という数値は、事実上不可能だ。現実的に達成しなければならない目標値として、この数値を上げている。80% という数値を設定し、それに達していなければ、これをチェックし、改善するのが PDCA サイクルだ。そういう積み重ねで改善していくしかない。100% 目指せれば良いが、現実を踏まえた上で、達成しなければいけない期待値的な数値だということを理解いただきたい。

(委員 A)

何度も言っているが、この審議会の委員の任期はどうするのか。ローリングしていくときに、役場だけでなく、我々が一緒に審議をする組織を作るのはいかがか。

(事務局)

委員の任期は、3 月議会で条例改正を予定しており、2 年にする。毎年のローリングは、アンケート調査を行い、住民の満足度等を取っていく。また、この審議会で、進捗状況を確認、

検証していくことを考えている。

(委員 A)

審議会の委員を含めた中で検討すべきと思うので、そのような方法で進めてもらいたい。

(事務局)

28 ページに、計画の進捗管理がある。この中で「PDCA サイクルを基本として、事業の進捗管理、事業実施後の検証、自己評価及び外部機関による評価を実施します。」と記載している。この外部機関による評価を、この審議会で行いたいと考えている。現在の総合計画審議会は、計画ができるまでになっているが、条例改正を行い、この審議会の中で、計画の進捗管理を行えるようにしたい。

(会長)

条例改正まで踏み込む事務局の熱意は認めたい。個人的には、もう少し少人数でも問題ないのではないかなと思っている。検討する必要があると思う。

総合計画はサブタイトルをつけるのが一般的だ。手元の資料では、案として記載しているが、計画書基本構想の 22 ページのまちづくりの基本理念の中に、「未来に躍動する『共感』『協働』のまち」という表現があるため、これをキャッチフレーズと考えるのが普通だ。そこで、このキャッチフレーズを第三次みやき町総合計画のサブタイトルとすることについて、意見をいただきたい。22 ページでは、「共感」「協働」で鍵括弧が連続しており、一般的に馴染みのある表現形態ではないため、手元にある資料では「未来に躍動する共感～協働のまち みやき」としている。

(委員 C)

「未来に躍動する共感」と「協働のまち」という二つの文になっているのが気になる。基本理念の方は「共感」「協働」が非常にクローズアップされているため、基本理念のとおりで良いと思う。ただ、右側に「みやき」とあるのは良いと思う。

(委員 A)

「未来に躍動する『共感』『協働』のまち みやき」を主題にして、下に副題として、第三次みやき町総合計画とした方が、親しみやすいと思うが、いかがか。本誌の方は良いが、概要版は第三次みやき町総合計画と下に小さく書いた方がよいと考える。

(会長)

その点は、デザインの部分で解決できると思う。内容はどうか。基本理念のとおりで、右に

「みやき」をつけるものと、鍵括弧を外す表現のどちらが良いか。事務局一任でも良いが、委員に町民目線で、どちらが分かりやすいか意見をいただきたい。

(委員 D)

鍵括弧つきの方が良いと思う。

(会長)

他に意見はあるか。なければ、本編に記載されている「共感」「協働」の鍵括弧をつけて、その後に、スペースを空けて「みやき」を入れるという提案で、了承いただけるか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは、それを前提にして、製本段階でのデザイン等を事務局で工夫してほしい。

以上で、予定していた議事は終了した。令和3年12月から始まり、諮問を受け、全6回審議会を行い、活発なご意見いただいた。会長として取りまとめ、これで本当に十分なのかという不安はあるが、いただいた意見を取りまとめることができた。これをもって、町長への答申としたい。

4 答申

<答申>

5 町長挨拶

(町長)

全6回、1年以上にわたり、審議をいただき感謝したい。会長と副会長には、会議を取りまとめていただいたことについても、感謝したい。会長が、審議が足りているのか一抹の不安がということを言われた。この点については、これからはローリングのところで、チェックしていきたい。基本理念に掲げている「共感」「協働」のまちを背骨に据えて、計画を実行していきたい。

6 閉会